

新水道ビジョン推進のための地域懇談会（沖縄地域）

グループディスカッションの議事メモ（要約）

1 沖縄県における広域化の取組について

ディスカッションの冒頭で、沖縄県保健医療部生活衛生課より、「沖縄県における広域化の取組」と題して、沖縄県が進める広域化の概要について説明を行った。

2 グループディスカッション

会場の都合等により、グループ毎ではなく全体（約 70 名）で情報交換とディスカッションを行った。

○ 各事業体の事例紹介

- ・ 将来的には、県が進める広域化の対象になっているが、まずは簡易水道の統合を確実に進めるよう準備している。島内に上水道と簡易水道が併存しており、簡易水道の料金を改定する必要が生じたため、本土からの移住者も含め、住民説明会を行った。
- ・ 管路及び施設の老朽化、職員数の減、水源におけるクリプトスポリジウム指標菌の検出等、様々な問題を抱えている状況のもと、経営基盤の強化を図る必要がある。施設の統廃合について検討した結果、上記の要因をもとに統廃合の対象を選定し、複数の浄水場を 1 箇所に集約することになった。
- ・ 管路更新・耐震化計画を検討するに際して、計画の妥当性の判断や事業の優先順位等を審議するための委員会を設立し、審議を行った。
- ・ 本土復帰以前の管路を更新する事業がほぼ終わりに近づいた頃、次第に経年化してきた本土復帰以降の管路の更新が課題となってきた。このため基幹管路や重要施設等の優先順位付けについて検討し、耐用年数を超えた老朽管の更新に併せて耐震化を図る計画としている。
- ・ これまで耐震診断、基本計画、事前評価、再評価、水道ビジョンの策定・見直し、財政計画の策定という一連の検討を行っている。
- ・ 県が計画している広域化について、まずはステップ 1 を確実に遂行するべく進めているところである。

○ 意見交換

- ・ 県内の水道事業体は財政基盤に格差があること、離島を含め簡易水道が存在すること、水源が豊富でない地域が多いこと、水道料金の水準に差があること等、様々な課題を有していることから、広域化の検討を行う際には、需要者のコンセンサスを得ながら進めていくことが重要である。
- ・ 広域化の成功要因は、その形態によって様々なものがある。首長のリーダーシップという要因は大きいと思われるが、広域化の種をまいて芽を出していく過程では、中核となる水道事業体が周辺と連携して検討を進めていく等、水道事業体の職員の労力が重要ではないか。
- ・ 経営基盤の強化という検討の過程で下水道の統合もテーマとなっており、水道料金だけでなく下水道料金とのバランスも検討課題となっている。また、統合によって水道料金の高い事業体が値下げし、一方では値上げとなることもあるため、需要者のコンセンサスを得ること

が重要な課題となっている。

- ・ 統合の検討を行うに当たり、近隣市町村がどのような施設を保有しているのか分からないので、担当者レベルで勉強会を開くなど、横のつながりや連携を高める必要がある。
- ・ 大規模事業体としては統合のメリットを見出しにくい面もあるので、運営基盤が脆弱な小規模の水道事業体からの働きかけが重要ではないか。